

しいのき

発行年月日 2024年10月1日

編集・発行  山崎記念 中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119



都庁・南展望室から見た中野サンプラザ（2024年8月撮影）

その名は「中野サンプラザ」

歴史民俗資料館 館長 佐藤 加奈

「なんとも寂しいね。あれは何かというか、私たちにとっては故郷の野山や小川みたいなものだったから・・・」
ため息をついて、そんな風に中野サンプラザの閉鎖を嘆く人がいました。

「都庁の展望室で三角形のあれが見えて、ああ、あそこが中野なんだと思うと、なんだかうれしくてね・・・」
追憶にひたり、そんな風に「中野のシンボル」に対する想いを口にする人がいました。

人口密度が国内第2位という過密都市・中野にあって、およそ似つかわしくない、故郷の野山や小川という言葉で語られる建物。三角形の独特なフォルムゆえに、都庁の展望室で中野方面の目印となっている建物。

50年間にわたり、いつもそこに在り続け、それを知る者にとっては、さまざまな思い出がよみがえる存在。それが中野サンプラザでした。

令和5年7月2日、中野サンプラザは長い歴史の幕を閉じました。あとに残された膨大な関連資料—オープニング・セレモニーのテープカッター、コンサートのパンフレット類、イベントTシャツ、設計図などは、株式会社中野サンプラザから中野区立歴史民俗資料館へと寄贈されました。

中野サンプラザの元々の正式名称は、全国勤労青少年会館。平成16年（2004）の民営化をもって取り外されたその館銘板も、寄贈資料のひとつとなりました。

いただいた資料は当館で大切に保管され、分類され、企画展「その名は『中野サンプラザ』」にて、その一部をお披露目することになります。

それぞれの思い出を胸に、ぜひ在りし日の中野サンプラザに向き合っていただければと思います。

・企画展 その名は「中野サンプラザ」

令和6年10月1日（火曜日）から12月22日（日曜日）まで開催

文化財よもやま話

—軍用鳩・中野種と鳩魂塔—

2024年6月18日(火)～8月11日(日)まで企画展「あつまれ動物!」を開催しました。中野は、江戸時代に將軍家の鷹狩の場であり、將軍徳川綱吉の「生類憐みの令」で作られた「御囲」と呼ばれる大規模な犬小屋があったこと、見世物としてベトナムからやってきた象が飼われていたことを紹介し、郷土玩具や絵馬にあらわされた動物、井上円了のおみやげ品から動物の姿のものを取り上げました。

明治22年(1889)の中野駅開業後、駅北側に電信隊・鉄道大隊・気球隊が創設され、電信第一連隊では軍用鳩「中野種」の開発が行われました。鳩の帰巢本能を利用した伝書鳩は鳩の脚環に通信文を入れて送るもので、昭和30年代まで新聞社でも利用されていました。軍用鳩が軍事に欠かせなかったのは、犬の移動距離が1日約3～5kmなのに対し、優秀な軍用鳩は約90km以上も飛び続けられ、通信が傍受されずに敵陣上空を飛べたからです。

電信第一連隊で飼われた軍用鳩「中野種」が優秀だったのは放たれた場所が移動しても、そこへ戻ってこられる「移動鳩」として訓練されていたことにあります。戦時中は軍隊基地が転戦するため、本拠地が移動しても移動先がわかる鳩が必要だったのです。

大正8年(1919)には陸軍は軍用鳩調査委員会を設立しフランスから千羽の鳩と移動式鳩舎4輦を輸入しています。昭和4年(1929)、軍用鳩調査委員会事務所前庭に地球の上で鳩が羽を広げた姿の「鳩魂塔」が建てられました。同8年の中野駅のスタンプは、鳩が羽を広げた形と、鳩魂塔と兵士が描かれた2種類あります。

鳩魂塔は昭和14年(1939)、電信隊の移転で上野動物園内に移設。戦争末期には金属供出で破損もすすみ忘れられていましたが、昭和57年(1982)、愛鳩家らにより靖國神社に奉納されました。(北河)



靖國神社の鳩魂塔

大地に眠る歴史

山の手大空襲の痕跡

現在、世界では様々なイデオロギーの対立を発端とした、軍事行動が毎日のようにニュースで報道されています。私たちが生きる現代の日本は平和な日々を送っていますが、今から約80年前、昭和20年(1945)に中野が焼野原になった山の手大空襲をご存じでしょうか?今回は山の手大空襲の痕跡が区内の発掘調査によって見つかったので紹介したいと思います。

発掘調査は本町二丁目の成願寺遺跡Ⅲで行われ、写真にあるように階段付きの竪穴状の待避壕(防空壕)がほぼ当時の姿のまま発掘されました。規模は深さ約1.5m、室部の最大長約2.2m、最大幅が約2.1mで、壁面際には柱穴が14基掘られており、土留めの為に横方向に板が詰められていたと考えられます。出土遺物は旧日本軍の主力小銃である三八式歩兵銃や天皇即位を祝う意味を示す「大禮賜饌」と墨書された御神酒徳利等が見つっています。その他にも待避壕内部は階段側から室内へ焼土が流れ込むように埋められていました。このような状況から太平洋戦争中に構築された待避壕であることが分かりました。では待避壕内部の埋土が通常の土ではなく、焼土であった原因は何だったのでしょうか。昭和20年5月24日に米軍のB29が東京上空に飛来し、投下された焼夷弾により東京は焼野原になり、区内も東部や南部を中心におよそ5割が焼失しました。このことから山の手大空襲により被害を受けた瓦礫を片付けるごみ穴として、焼土も一緒に埋められた可能性が考えられます。今回見つかった待避壕と出土遺物、さらに埋められた焼土は戦時中の生々しい状態で約80年ぶりに姿を現しました。そこから見えるのは、当時の社会状況により待避壕を作り、空襲のサイレンが鳴り響く中、戦争の恐怖から身を寄せ合い支えあってきた人々が想像できます。これは決して過去のものではなく、現代に伝える教訓として、戦争と平和について皆さんも考えるきっかけとしてはいかがでしょうか。(藤掛)



成願寺遺跡Ⅲ待避壕(防空壕)

中野往来

江古田川をめぐる

江古田三丁目にある「江古田の森公園」の森に沿って流れ、松が丘二丁目の「江古田公園」付近で妙正寺川に合流する江古田川はかつて中新井川と呼ばれていました。その水源は、享保10年（1725）の江古田村村鑑帳に「西は中新井村池より東は落合川（妙正寺川）に流れる」とあります。元禄9年（1696）に江戸の北部の水を確保するために、玉川上水から分水された千川上水が開設され、後に流域で灌漑用水として利用できるようになります。中新井川にも数か所の分水口が設けられ、水が引き込まれました。旧江古田村付近でも弁天（桜台）分水や江古田分水が設けられ、田畑をうるおしました。川の水を広く灌漑するために堰が造られ、明治30年頃、大橋の近くの田を利用して水車が営まれました。水量が多くなかったため、規模が小さく、杵の数は15本くらいでしたが、付近の農家の米や麦などを搗くのに、一年中休みなく運転したということです。

大堰の関下に不動明王の丸彫の石像が建っていて、村の人が富士や大山へ代参に行くときには、ここで水垢離をして、不動明王に道中の安全を祈願しました。また、毎年5月の下旬に村をあげた「万垢離」という

行事も行われました。旧江古田村には、原、東、片山、丸山、籠原の五つの組があり、各組が一ヶ月交替で地域の行事などを支える月番があり、月番が当番にあたりました。五色の色紙で江古田五組の家の数だけの幣束を作り、藁束に刺した「ぼんでん」を先頭に、長さ4m余りの木太刀を担いで川に入り、掛け念仏の声勇ましく、氷川神社に至り、村内安全五穀豊作を祈願します。夕刻には月番は幣束を各家に配り、家々でそれを門口に挿して、一年の魔除けとしました。その不動尊は、河川改修などで移設していたのが、戦時中行方不明となり、区画整理後に大橋の南側にできた橋の東側に、仏教画家・中谷光炎画伯の筆による線刻の不動像が新しく建てられました。この橋は不動橋と命名されました。（栩木）



不動尊取離垢

れきみんみどころスポット

一野外展示新規加入資料紹介一

当館のみどころのひとつに館外東側の野外展示があります。

本稿では、ここに加わった、^{こてえし}鍔絵師・伊藤菊三郎の作品2点について紹介します。

伊藤菊三郎（1889-1983）は、幕末・明治前期の江戸・東京で活躍した^{いづちやちやう}鍔絵師・入江長八（別名・伊豆長八〔1815-89〕）の孫弟子にあたる人物です。

鍔絵とは、建物の壁面や天井などに左官技術を用いて立体的に施す装飾のことで、この鍔絵をひとつの芸術品として昇華させ、有名にしたのが入江長八でした。

明治以降の近代建築において、鍔絵の技術を身につけた長八の弟子たちが重要な役割を果たしました。伊藤菊三郎もその一人です。

伊藤菊三郎は、明治22年（1889）に現新宿区で左官職人・伊藤留吉の三男として生まれ、明治41年（1908）、19歳で長八の高弟として知られる吉田亀五郎に入門して鍔絵を学びました。

このたび野外展示に菊三郎作「防火用水槽」と「犬の像」が新たに加わりました。

「防火用水槽」は昭和17年（1942）2月、当時中野に住んでいた菊三郎が自宅用のものをセメントモルタ

ル仕上げで制作した作品で、正面に「用水」の文字と波を思わせる文様、背面にはうっすらと富士山、残りの6面には戦車や戦艦、兵士の姿など戦争の様子が立体的に描かれています。

鍔絵の技術とともに目をひくのが構図の面白さです。戦闘機内の兵士を描いたと思われる一場面では、立体化の強弱による遠近の表現と、下半分に斜めに見切れる形で俯瞰で描かれた兵士の後ろ姿が、まるで映画の戦闘場面を見ているような臨場感を与えています。

もう1点「犬の像」は、立体像の作例が少ない菊三郎の貴重な作品です。

長らく区内菊三郎宅の板塀の内側に道路に向かって置かれていたもので、番犬の役割を果たしていたといえます。なんともいえない愛嬌と今にもふわりと動き出しそうな軽やかさと柔らかさまで感じる作品です。

（森本）



事業報告(2023年4月～2024年3月)

各種事業経過

事業名	内容
企画展	「Yes! 農! 一育てる、食べる。中野の農業」(6/6～7/30)/ 「発生から100年 記録された関東大震災」(10/3～12/3)/「おひなさま展」(R6. 2/13～3/16)
館蔵品展	「『メディア』が伝えたこと」(4/18～6/4)/「むかしの道具の工夫」(8/1～10/1)/ 「七人の福神たち」(12/5～R6. 2/11)
コーナー展	「地域展示『大和町』〈棟方志功生誕120年記念〉」(9/9～10/29)/ 「旧豊多摩監獄表門関連展示 2023」(11/28～R6. 1/14)
ミニ企画	「夏休み学習コーナー展『戦時中の暮らし』」(7/23～8/31)/「江古田獅子舞」(9/12～10/8)/ 「文化財防火デー」(R6. 1/16～1/30)※その他年間を通して様々な年中行事を紹介しました。
夏休み講座	れきみんサマーフェスタ2023 (7/23～8/31) 「勾玉作り」「かんたん組みひも」「コロコロ貯金箱」「むかしの暮らし体験」 「ボードゲーム・マンカラ作り」「牛乳パック日時計」「金魚の紙ふうせん」 「手作り紡錘車DE糸つむぎ」
講座	古文書講座(講師: 笠原 綾氏、大友 一雄氏・9/2～10/14) 哲学堂講座「一から学ぶ哲学堂」(講師: 佐藤 厚氏・9/23・9/24) 伝統文化体験講座「お能にトライ!」(講師: 小島 英明氏・R6. 3/2・3/9)
公開事業	春季「山崎家庭園・茶室の公開」(4/22～5/7)/秋季「山崎家庭園・茶室の公開」(9/30～10/31)
その他	小学校総合学習見学20校

埋蔵文化財対応

本町2丁目28番民有地試掘(4/5)[原因者] 南台5丁目30番民有地試掘(4/10)[国庫補助] 江古田1丁目35番民有地立会(4/20) 弥生町1丁目28番民有地試掘(4/24)[原因者] 江原町2丁目31番民有地試掘(4/27)[原因者] 新井4丁目32番民有地試掘(4/28)[国庫補助] 松が丘1丁目10番民有地立会(5/1) 南台3丁目6番民有地試掘(5/9)[原因者] 本町2丁目28番民有地本調査(6/12～30) [原因者] 弥生町1丁目21番民有地立会(6/20) 弥生町4丁目17番民有地試掘(7/5～7)[原因者] 江原町2丁目28番民有地試掘(7/13)[国庫補助] 松が丘2丁目28番民有地立会(7/19) 本町2丁目27番民有地試掘(7/24)[国庫補助] 南台5丁目27番民有地立会(8/4) 本町2丁目18番民有地立会(8/18) 江原町2丁目28番民有地立会(8/17)	本町6丁目16番民有地試掘(8/28～9/1) [原因者] 若宮1丁目14番民有地立会(8/31) 弥生町4丁目17番民有地本調査(9/1～11/17) [原因者] 新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地確認(9/6・7・11)[国庫補助] 松が丘1丁目34番哲学堂公園庭球場試掘(9/11～10/5)[原因者] 野方3丁目14番民有地試掘(9/15)[原因者] 沼袋1丁目31番民有地立会(9/25) 松が丘2丁目19番民有地立会(9/29) 中野6丁目17番民有地立会(10/3) 大和町4丁目14番民有地立会(10/10) 江原町2丁目12番民有地試掘(10/17) [原因者] 本町6丁目16番民有地立会(10/24) 松が丘1丁目34番哲学堂公園庭球場立会(10/31～11/6)	沼袋1丁目26番民有地立会(11/10) 若宮1丁目15番民有地立会(11/20) 弥生町1丁目21番民有地立会(11/27) 新井3丁目38番民有地立会(12/19) 新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地立会(12/27) 南台5丁目30番民有地立会(12/27) 江古田4丁目9番民有地立会(1/11) 中野1丁目34番ガス工事立会(1/18) 新井3丁目37番旧法務省矯正研修所跡地本調査(12/20～2024/2/29) 沼袋1丁目17番ガス工事立会(1/30) 松が丘2丁目19番ガス工事立会(2/1) 江原町2丁目20番民有地試掘(2/14～2/15) [原因者] 本町2丁目19番民有地試掘(2/26)[国庫補助] 南台1丁目15番民有地立会(2/27) 中央1丁目45番試掘(3/5)[原因者] 南台2丁目40番民有地立会(3/21)
--	--	--

寄贈資料一覧

資料名	氏名・団体名
直良信夫氏著作書籍、年譜、著作論文目録	中澤 千枝子
中野町誌	匿名
関東大震災関連資料	大西 久江
フライヤー、画像(データ)、財団当時の冊子、パンフレット、ポスター、音源資料他	株式会社 中野サンプラザ
大正大震災大火災資料	小山 秀一
飯ごう、金属製・木製スプーン	佐藤 由美子
直良信夫氏 手紙	久保 鐵男
関東震災画報	鈴木 信雄
8ミリフィルム	中野区福祉団体 連合会 高橋 博行

敬称略: 受入順

資料名	氏名・団体名
平和記念東京博覧会等関係資料	小山 秀一
板碑・従軍関係資料	境 輝正
造園用半天・造園法図式大鑑全・写真	白井 晴代
棟方志功関連資料	本間 明子、慎一
沼袋町会旗	沼袋町会
鷺宮囃子冊子・データ・古写真	佐藤 慎
内裏雛、御所人形・胡蝶舞	町田 万喜子
古文書類、懐刀、写真類、盆棚、硬貨類	細井 郁子
観音講の諸道具	早船 角雄
八兄雄三郎氏資料	匿名
薦職資料	関根 勝彦

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。